

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201593		
法人名	社会福祉法人 豊心会		
事業所名	和幸苑グループホームあゆみ		
所在地	大分県別府市亀川東町		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3食 事業所で食事を作り提供しています。そのため、その日に利用者と話をして食べたい物のリクエスト受け付けたりして食べる楽しみを持ってもらえるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・外出傾向の利用者の情報共有、地域の介護福祉相談窓口、災害時の協力体制など、地域役員との協力体制が構築されている。
- ・事業所の畑で野菜を育て生育や収穫を楽しみ、食材として活用し、毎食、利用者の嗜好や季節感に配慮された手作りの食事が提供されている。
- ・協力医との連携により、利用者の健康管理や専門医受診が行われている。利用者の病状の重篤時にも、医療介護両面の助言を受け、介護スタッフでの重度化・看取り支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が身近なものになるよう、常に目の届くところに理念を貼ったりしている。	理念を目に付く場所に掲示し、職員間での理念の共有や支援の意識づけとなる様に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の美容師さんが2カ月に一度訪問して散発してくれたり地区の秋祭りに参加している。	地域行事に参加したり、保育園児の定期的な訪問を受けたりする関係が継続されており、地域の一員としての活動にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際に居る利用者さんの認知症の症状を説明したり、協力をどこで得られるのか等、推進会議を通じて地域に配信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度のペースで推進会議を開催。家族の参加が難しくなっているが、利用者・自治会長・自治委員・民生委員・地域包括支援センター職員・市役所職員も参加し、地域に関する情報交換などを行っている。	地域から複数の委員が運営推進会議に参加しており、地域の情報を得て事業所運営に活かしたり、委員から地域住民の介護や福祉の相談を受け、専門職に繋げる等の取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所高齢者福祉課職員が2カ月に一度の推進会議に参加。地域にある問題などを報告したり利用者の現状など報告している。	運営推進会議には、高齢者福祉課の職員が毎回出席しており、馴染みの関係が出来る。介護保険や相談、情報提供なども担当者を通してスムーズに行うことが出来る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で意識し、玄関の施錠や身体拘束は行っていない。	玄関は常に開放し、外出傾向の利用者も、無理に静止することなく気分転換や気晴らしをすることで、抑圧感なく過ごせる支援を行っており、職員全員で利用者の見守りに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム協議会等の研修会に参加し勉強している。		

事業者名:和幸苑グループホームあゆみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度などを必要とする利用者はいないが、グループホーム協議会の研修などに参加し必要な時に支援できる様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明を行い利用者や家族等に不安や疑問点にこたえられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月近状報告を行ったり、面会時には状況報告を行い家族の要望も聞くようにしている。	面会者が多く、面会時には家族からの個人的な食の希望など細かな意見や要望を聞く機会を持ち、利用者支援に活かしている。利用者のさまざまな場面での自己決定を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時に会議を開き職員の意見を聞く機会を設けている。	利用者の支援や業務の連携がスムーズにいくよう職員間で連絡を取り合っている。毎月のモニタリングは利用者の担当職員が行い、管理者や介護計画担当職員に報告し、支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心のある職員に対し資格修得の為に推奨を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格修得のための研修や試験等を支障なく受けられるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に一度、グループホーム協議会の研修に参加し、他事業所の職員との交流を図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の話やなじみの関係になれる機会を持ち家族だけでなく、本人から直接話が聞けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時より時間をかけ話を聞き、不安や求めているものを理解し汲み取ることが出来るように努め、そうした中で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけ話を聞くように心がけ必要としているサービスかどうか見極めたうえで必要時には包括支援センターなどにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという意識を職員が共有し、互いに協働しながら穏やかに生活できる様に場面作りや関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の在るがままの状況を把握し、それを家族に伝えそこから家族の思いに耳を傾け、本人を支えていく為の協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも馴染みの方の面会などで関わりを持ち、外出時には自宅近くを通ったりしている。	利用開始から日の浅い利用者が多いが、家族や友人知人など利用開始前の交友関係が継続されている。事業所での生活の長い利用者は、勤務経験の長い職員との馴染みの関係が構築されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分が日々変化している様子に注意を向け、利用者同士の関係が円滑なものになるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の施設に入居された方は行事等の際に面会しに行ったりしている。入院先での死去でサービスが終了した利用者家族からも介護の相談が寄せられたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めているが、意思の疎通が難しくなった利用者には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	介護計画作成担当者は、本人からの情報収集が困難な場合、家族から情報を得る一方、同性の親族から同性特有の思いや意向を聞き取ることで、その人らしい支援に繋がられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅に訪問したり、本人・家族から聞き取るようにしている。又、折に触れ本人や家族からどのように生活していたかを聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムをつかむように努め、本人の出来る事やわかることの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、担当職員が中心となって把握し、本人が自分らしく暮らすことが出来るかを念頭に置き本人や家族の要望を介護計画に活かしている。	利用者の出来る事を継続でき、利用者自身の自信に繋がるような支援計画作成に努めている。毎月、担当職員がモニタリングを行い、状況に応じた変更や継続支援の指針としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分摂取量。排泄等、身体状況や日々の暮らしの様子をありのまま記録している。又、職員が確認できる様に情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中のニーズも含めて、本人や家族から言いやすい関係作りに努め、即実行に移すように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園の慰問や、中学生や福祉学科の学生のボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診している。家族の意向により職員が付き添い介助を行い連携を取っている。	利用者のほとんどが協力医を掛かりつけ医としている。月4回定期的な往診が行われ、日常的な健康管理から終末期の対応にも連携体制がとられている。精神科などの専門医の受診は、職員対応で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	最低1日一回バイタル測定しかかりつけ医師・看護師に連絡し相談、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、食欲や状態を聞き、医師から受けた説明などを家族から聞いたりしながら隊員等の相談を行っている。定期的に主治医にも報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為に制限がありますが、本人や家族の意向を聞きながら主治医と相談し、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	看護職員が在籍していない為、終末期に事業所で出来る事、できないことを伝えている。家族の意向により、協力医と連携を図りながら、事業所での看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを策定し、対応できる様にしている。又、かかりつけ医にすぐ相談できるような関係を築いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回防災訓練を行い、避難体制の見直しを行っている。亀川地区の防災訓練や避難訓練にも参加し、事業所職員が地区の防災士としても活動している。	事業所が海岸線に隣接した立地状況の為、津波などの災害時、利用者の心身の状況を考えた実践的な避難誘導の方法や避難場所について検討が行われている。年2回火災対応の避難誘導訓練が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を尊重し、本人が自分の希望を言 いやすい声かけや支援を行うよう心がけて いる。	日々の生活の中で、食事の希望、入浴の希 望、レクリエーションの参加有無など、利用者 が自己決定することを、個人の尊重に繋げて いる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	意思疎通の難しい利用者の方には、表情か ら読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	体操等、体を動かすことやフロアで過ごす、 自室で過ごすなど利用者に応じて好きなよ うに過ごしていただけるように声かけを実施 している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	お風呂の準備をする際に、着たい服を持っ てきてもらったり、選べない利用者さんに関 しては、同じ服装にならない様に支援してい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	午後の雑談の際に、今日は何を食べたい？ と利用者の方に聞いて献立を決めたりする ことも少なくない。テーブル拭きや食器拭き なども利用者に行ってもらっていることもあ る。	利用者や家族からの希望や、季節感を組み 入れ、事業所の畑で採れる野菜を活用した り、食材の買い出しの工夫をしながら、三食 手作りの食事が提供されている。皆で、回 転すしの外食を楽しむ支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	水分制限など考慮しながら、ヤクルトや牛 乳、カルピス、紅茶やコーヒーなど気分を変 えてもらいながら水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、ここに応じた口腔ケアを実施。舌の 掃除も含めて声かけしている。		

事業者名:和幸苑グループホームあゆみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツでは、蒸れて痒くなる為、普通の布パンツに尿とりにししたり、尿とりやおむつに関しても、定期的に見直ししている。	利用開始時に紙パンツ利用であった利用者が、日中布パンツで過ごすことで、夜間の不眠が解消した事例があり、パッドなども、個々の状況に合わせ個別に購入し費用の負担軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大腸ポリープの既往歴があったりそうしたことに注意しながら、食事形態を変更したり、排便コントロールを行うように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その瞬間の気分によって、お風呂に入らない等訴える方もいるので、このペースに合わせ入浴するタイミングを決めるようにしている。	週3回、午後の入浴を基本としている。介護度1から5までの利用者全員が入浴している。今年度、重介護度の利用者が安全に入浴できるよう、リクライニングシャワーチェアを購入予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の様子を把握し、少しきつそうだったり、夜眠れていない等の把握を行うことで、個々の状況に応じて自室で横になったり、ソファで休憩できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週処方されるお薬の説明書きや、変更になった薬の注意点などを引き継ぎ簿に記入し、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に応じて、自宅で行っていたことや得意なことを把握し、役割を持ってもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出もあり。事業所としては、予定を組んで出かけることもありますが、利用者の体調などに合わせて近くの商業施設に行ってお茶をしたりする事がある。	肌着や靴の購入で個別外出をしたり、花見やミカン狩り、行楽地への集団の外出支援が行われている。事業所敷地内の畑で野菜を育て、生育や収穫を楽しむなど、日常的に外気に触れる機会がもたれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	公衆電話を使う際にも小銭を所持している利用者がいたりする。個人の能力に応じて、お金をを渡したり、預かったりしながら使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話をフロアから離れた場所に設置。うまく使えない場合などは職員が支援し、相手が出て話ができるまでをセッティングしたりしている。手紙などに関しても、趣味の俳句を応募したりする際には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中フロアで過ごされる利用者が多く、台所とフロアは対面式になっており、音や匂いなど五感を刺激したり、気軽にお茶を頂戴等、言ってこれるような工夫をしている。季節を感じさせるディスプレイをしたり、作品作りも行っている。	広々とした共有空間には、利用者の集う食卓テーブルやソファが置かれている。利用者の状況に合わせて共有空間の様式替えやソファの配置替えを行い、利用者が思い思いに居心地よく過ごせる工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには共同で使えるソファなどを配置していますが、そこから離れた場所に椅子やテーブルを置いたり、畳の縁に座って気軽に話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は、個人の能力に応じて手すりをつけたり、入居時に自宅から家具や仏壇を持ち込み、ペットや家具の配置を柔軟に変更できる様にしている。	利用者の思いを大切に居室づくりに努めている。居室内にトイレが設置されている為、排泄移動時の動線や安全に配慮した家具の配置や手すりの取り付けが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室などに関しては、ここに合った家具などの位置を配置したりしている。フロアに関しても、物品などの位置を考慮したり、時には席替えをしたりしている。		